

平成30年度 指定管理施設検証結果報告書

PLAN	施設名	甲州市甲斐の国大和自然学校			作成日	令和1年7月4日	
	所管課担当名	観光交流課 観光企画・宣伝担当		課長名	中村 賢一	作成者名	市川 太一
	指定管理者	名称	株式会社 フィッツ				
		代表者	代表取締役 清水 正倫				
		所在地	山梨県甲斐市玉川181番地				
		指定期間	平成26年4月 ~ 平成31年3月				
	管理施設の概要	施設所在地	山梨県甲州市大和町田野116番地				
		設置目的	地域産業の振興を図るため、農業と自然を活用した都市との交流施設として、甲斐の国大和自然学校施設を設置する。				
		利用者	市民、市民以外	施設管理体制	15名	開館日時間等	一日使用 9:00 ~ 17:30 宿泊使用 13:00 ~ 10:00 (毎週月曜日・年末年始・臨時休館を除く)
	事業概要	サービス提供の内容					
指定管理業務		(1)自然学校施設の利用申請の受付及び利用許可等に関すること。 (2)自然学校施設使用料徴収事務に関すること。 (3)自然学校施設利用料の徴収事務に関すること。 (4)施設利用あたってのサービス、指導に関すること。 (5)その他の日常業務					
	自主事業	(1)「子ども自然塾」の開催など子供向け事業の実施 (2)市内外からの合宿誘致 (3)青少年育成事業の充実					

DO	管理運営コスト推移 (千円)		平成26年度 (指定期間1年目)	平成27年度 (指定期間2年目)	平成28年度 (指定期間3年目)	平成29年度 (指定期間4年目)	平成30年度 (指定期間5年目)
	予算	指定管理料	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
		利用料金収入	34,400	34,900	38,500	37,000	37,500
		その他収入	1,200	1,200	500	600	100
		管理運営経費	45,600	46,000	50,000	47,100	47,100
		指定管理料	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
	決算	利用料金収入	33,498	38,102	32,754	33,108	29,653
		その他収入	361	575	84	44	47
		管理運営経費	43,248	47,401	43,422	44,996	42,926
		収支	1,611	2,276	416	-844	-2,226
施設の稼働状況		平成26年度 (指定期間1年目)	平成27年度 (指定期間2年目)	平成28年度 (指定期間3年目)	平成29年度 (指定期間4年目)	平成30年度 (指定期間5年目)	
指標	施設利用者数(人)	12,063	12,325	10,877	11,221	9,406	
	活動結果	・収入に関しては7月以降の天候不良により団体客のキャンセルがあり客数の減少に伴い宿泊料等が伸びなかった。また、支出に関しては、29年度に凍結による修繕が発生したため、30年度は館内のエアコンを動かし温度が下がらないようにしたため、電力量が増えてしまい支出増につながった。自主事業に関しては「子ども自然塾」の回数を増やすなど積極的に取り組んだ。					

CHECK	評価観点	評価 (5 4 3 2 1) 高→低	評価の説明
	(1)事業の運営	4	・協定書通りに適正に管理運営が行われた。 ・自主事業も昨年より回数を増やし利用者数を増やすなど事業の努力を行った。 ・自然を使った体験などを主な事業としているため、天候不良によるキャンセルが課題となっている。今後、室内で行う体験や、閑散期の利用者を増やす体験など実施し努力を行って頂きたい。
	(2)施設の維持管理	3	・日常点検、法定点検と適切に行われている。また、職員研修も定期的に行い職員の業務水準の維持・向上に努めている。
	(3)収入支出	3	・収入に関しては、キャンセル等により宿泊料と体験料が計画より減収となった。支出に関しては、電気代及び水道代が増えたため最終的に赤字となった。天候不良時のキャンセル及び閑散期の利用を増やす努力をし収支の改善を行って頂きたい。
	(4)総合評価		総合評価の説明(施設所管課による一次評価)
	優良 良好 妥当 要改善 不適	良好	・自主事業の回数を増やすなど充実を図る努力を行っているが、まだまだ収入が伸び悩んでいる。天候不良によるキャンセル、閑散期の利用者減による収入減となっている。点検、職員研修など利用者の安全に係わる対策は着実にできている。

ACTION	平成30年度評価結果に対する今後の対応	
	当面の課題	・天候に左右されない自主事業を行うことと、閑散期の利用者を増やすような自主事業を行う必要がある。
	課題解決への対応	・室内で行える体験、閑散期である冬を生かした体験を他の施設の事例等を参考に研究を進めていく。

二次評価(公共施設活用等検討委員会での総括意見)

・仕様書及び協定書のとおり適切に管理されており、自然環境を活かしたキャンプ体験などの自主事業を展開し、積極的に利用者の確保増加に努めている。  
 ・利用者へのアンケートを実施し、利用者の意見への対応など、サービスの向上に努めている。  
 ・ハイシーズンの天候不順による団体合宿のキャンセルが事業収益に影響を与えているので、閑散期の利用促進など、新たな利用者を獲得する方策を検討するとともに、リピート率が向上するよう、引き続きサービスの向上に努めていただきたい。